

第3回 北部対馬地域活性化検討委員会

日 時 令和7年11月26日（木）13時30分～16時40分

場 所 上対馬総合センター

参加者

No.	所 属	職名・役職	氏 名	出席者
1	対州馬保存会	会長	三原立也	○
2	対馬観光物産協会	事務局長	西護	○
3	(株)国際ライン対馬（国際航路関係）	課長	山口正光	
4	(株)インタープロセス（国際航路関係）	代表取締役	比田勝亨	
5	国境マラソンIN対馬実行委員会	実行委員長	今村純一	○
6	あじさい祭りパラグライディング対馬大会実行委員会	実行委員長	平山美登	
7	上対馬漁業協同組合（海業振興モデル地区事務局）	代表理事組合長	八島康平	○
8	上対馬南漁業協同組合	代表理事組合長	神田満男	
9	佐須奈漁業協同組合	参事	小宮通昌	○
10	上県町漁業協同組合(伊奈地区)	参事	高田清志	○
11	対馬農業協同組合上対馬支店	支店長	米田昌隆	○
12	対馬森林組合	北部支所長	瀬崎克喜	
13	対馬市商工会	理事	武富泰一	
14	比田勝郵便局	局長	平山康人	
15	十八親和銀行比田勝支店	支店長	大坪利晴	○
16	対馬市社会福祉協議会	理事	宮原勝美	○
17	長崎県立上対馬高等学校	校長	伊藤逸郎	○
18	教育委員会学校教育課（中学校担当）	主幹兼指導主事	阿比留喜盛	○
19	教育委員会学校教育課（小学校担当）	主幹兼指導主事	作元浩二	○
20	対馬振興局地域づくり推進課	課長	高比良州雄	○
21	対馬野生生物保護センター	上席自然保護官	皆籐琢磨	
22	上対馬振興部	部長	原田勝彦	○
23	上県行政サービスセンター	所長	平山誠	○
24	しまづくり推進部	部長	藤田浩徳	
25	観光商工部	部長	平間博文	
26	農林水産部	部長	平川純也	
27	建設部	部長	原田武茂	
28	保健部	部長	阿比留正臣	○
29	教育委員会北地区教育事務所	所長	木寺晃三	○
30	消防本部北部支署	署長	武末淳	
31	株式会社 対馬地球大学	代表取締役	高野 清華	○
32	移住定住者（島おこし協働隊OG）		庄司絵里加	○
33	移住定住者（島おこし協働隊OG）		橋田ゆかり	
34	公募委員		築城慎一	○
35	公募委員		前野真美	○

当時は、国の地方創生伴走支援制度で北部対馬での支援をいただいている伴走支援官と、アクションプランの実走で連携を検討している島外の民間企業がオブザーバーとして参加しました。

次 第

- 1 開会あいさつ
- 2 議題
 - (1) (仮称) 北部対馬アクションプラン（案）の内容協議
 - I はじめに
 - II 北部対馬を取り巻く現状
 - III 市民の声から導く優先的な課題
 - IV 北部対馬の課題の整理と戦略
 - V 実行に向けた推進体制
 - (2) (仮称) 北部対馬アクションプラン名称について
 - 3 その他
 - 4 閉会

委員会の様子

全体でのアクションプラン（案）内容協議および、戦略部分については、5グループに分かれて意見交換を行いました。



計画書の名称が決まりました

(仮称) 北部対馬アクションプランの正式名称として、検討委員会での協議のもと、以下のように正式に決定しました。

北部対馬アクションプラン ～国境のまち！ここから、未来を動かす～

「北部対馬アクションプラン」は既往で他地区での策定経緯がある中対馬、厳原南部などに準じて名称を決定。加えて、北部対馬の地理的特徴であり、最先端であるニュアンスを含めた「国境のまち」、アクションプランでこれまでにない新しいプロジェクトを位置づけて、その稼働を進めるというメッセージとして「ここから、未来を動かす。」と決定しました。

A班

1 班での議論概要

■ライドシェアについて

【運転手人材の掘り起こし】

- ・スキマバイトについて、主婦の方の潜在的な時間がちょこちょこ空いているのではないかという話になった。そういう時間を探して活かすか。例えば、和歌山では、タクシーのコールセンターを主婦の方が隙間時間で行なっている事例がある。

【スマールスタート、実験からのスタートの方法】

- ・ライドシェアについては、大きく「公共ライドシェア」と「日本版ライドシェア」のそれぞれメリット・デメリットがある。北部対馬でマッチする形を探り、スマールスタートから始めて、最終的には高齢者だけでなく学生の通学にも使えるようにしたいという話になった。
- ・なお、群馬県で導入したライドシェアは、最初は「夜間」の時間帯からスタートしている。対馬では、奥様方が飲み会のお迎えに行くことが多いため、そのような負担を軽減するために夜間から実験してみるはどうかという話になった。

■その他

【空き家のデータ】

- ・空き家はデータ化されておらずもったいない。更地にすると固定資産税が上がることがネックになり、空き家のままキープされているのをどうするか考えなければならない。

2 検討内容（ワーキングの内容記録）

A班 グループワーク結果

参加者

2年前からタクシー事業実施。2種ドライバーは10%くらい
・他にも食堂、レンタカー、観光バス
・もともとは建設・土木

・対一タクシー
プロパンガス、ガソリンスタンド

・商工会
・上対馬身

ライドシェアの導入

新規参入というよりは規存事業者さんに一般ドライバーを活用した日本版ライドシェアを導入する
許可台数は運輸局から出された台数になる

事業者にとっての懸念事項

事業者にとってのネック
→事業者の仕事をうくら心配をされがちだが時給でやとえるので事業者のメリットもある
峰や豊玉のタクシー業者さんとのおりあい

使用車両

ライドシェア使う車は?
→自家用車でも会社の車でもOK
日本型ライドシェア
→事業者の車を使用してもらう形でやりたい。待機時間をへらせればいい

空白地帯（遠いところ）の人たちが利用する人が多い
送迎料は頂きたい
現状呼ばれたけど待ち時間が発することが課題
→ラインであればその場でやりとり可能
→カカオが使えるとさらにgood.

システム

誰もドライバーが見つからなかったら?
→見つかりませんでしたという結果になるコトも、
近くのドライバ優先して連絡が行くことになる
自家用車のメーターは?
→タブレットで代用ライドシェアは流しの運行は基本しないが仕組みとしては可能

運行上の課題

事故がおこったら?
→事業者や個人で保険に入ってもらう判断は各運輸支局と相談しながら
タブレットの電は?
→山あいでは途切れがまちなかで復活する今はドコモ系列の電波を活用

考えるべき方策

お年よりへのアプリの説明会
各地で実施をする
福祉タクシーの補助を活用する

B班

1 班での議論概要

■島の良いところを活かす

- ・対馬でインターンをしている大学生から、島の良いところとして、「自立性」「人間性」のある人が多いところが挙げられた。
- ・発展もいいが、ガヤガヤしていない場所も残してほしいという意見が出た。
- ・戦略の方向性には、「利便性」「経済性」「合理性」の話が出ていたが、その方向性だけでいいのかという点、また、それが幸せにつながるのかという話になった。
- ・新しいことを始めやすいのがこの島の良いところ。人が繋がったり、受け入れたり、良いねと言ってもらえるような島の強みを、プランの強みの中に位置付けてほしい。

■情報発信の必要

- ・移住も良いが、どのように発信を外していくのか。いかに人に来てもらうか。SNSを使って発信してくればという意見もあった。

■新しい観光のあり方を考える

- ・今の観光の姿は、10年前くらいの内容で古いのでは。韓国の人人が迷惑をかけているというのは少し前の観光モデルではという意見があった。違う韓国の観光客。客層や単価を上げるために、質を高めること。海業や交流、ガイドで導いて、喜んでお金が落ちる観光を北部対馬でつくっていかなくてはならないのではないか。

■人材確保

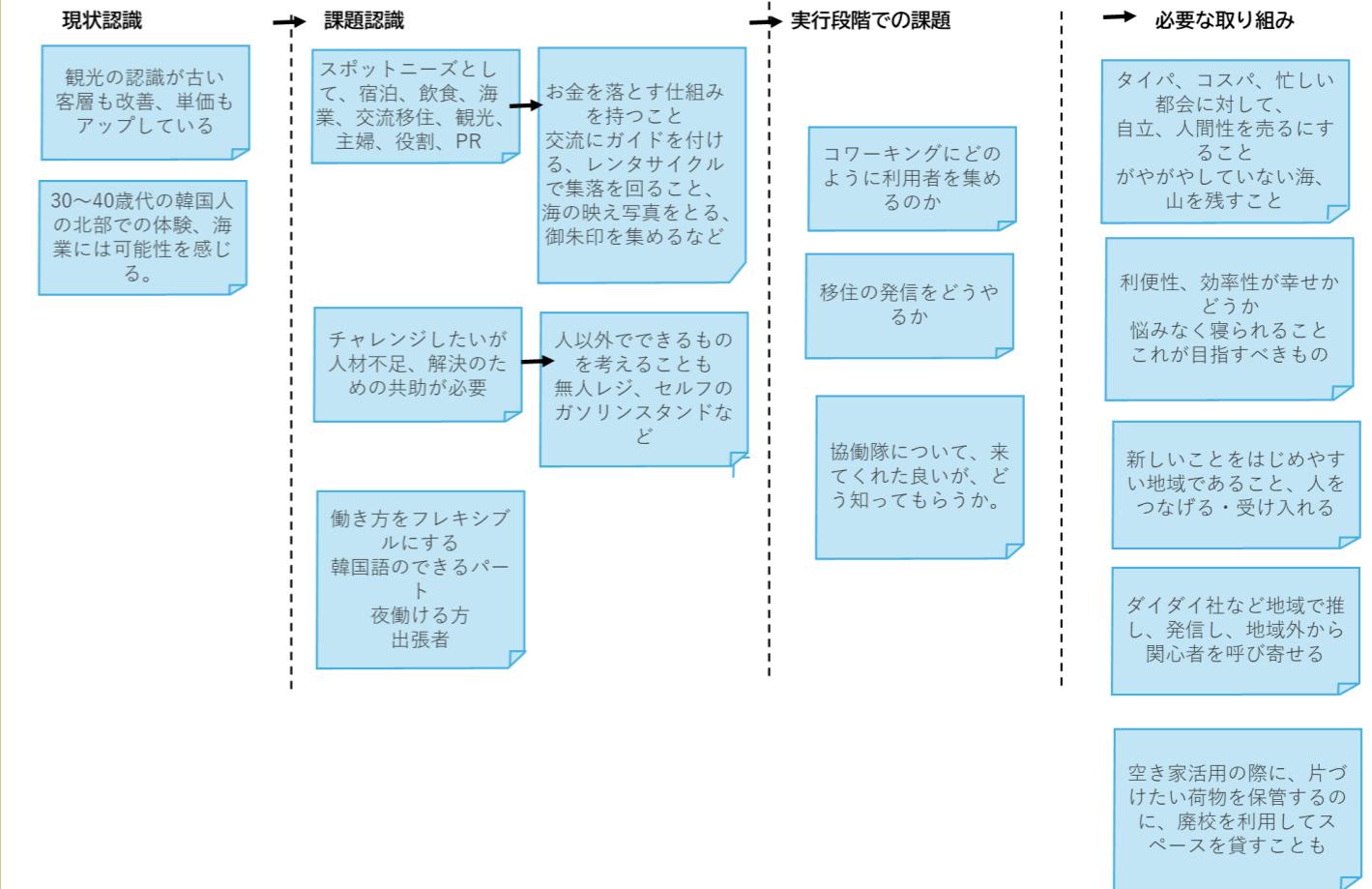
- ・人手不足は共通課題。北部対馬から解決できるような共助が重要。移住、観光、主婦の方に交流も兼ねて関わってもらえるような方法を考えたい。
- ・また、夜間の働き手がいないことも問題としてあげられた。出張のために来島した人が働けたり、夜は働きながらお酒が飲めるなど、柔軟性があると良い。人手をかけなくて済むのであれば、無人化や自動化を進めることも一案。

■公共施設の活用、空き家対策との連動

- ・廃校を活用し、空き家の家財道具等の荷物を廃校で保管することで、空き家を空にして流通を促すのはどうかという意見も出た。

2 検討内容（ワーキングの内容記録）

B班 グループワーク結果



C班

1 班での議論概要

■医療介護の課題

- アクションプランの中で、医療体制について、特に産婦人科や小児科が北部対馬にはないということから議論が出発した。医療・介護の不安から高齢になって島外へ転出する方、子どもの大学進学とともに一家で転出する方などがいると聞いた。本当にインフラが少ないことが原因で島外に出ていくのか考えた。

■働く場所・商売の視点

- 安定・安心して働く場所が重要。1時間かけないとビールが安く買えないなどのスーパーの少なさ。人口が減少しているからこそ、安定・安心した暮らしが揺らいでいるのではないか。
- 「稼ぐ力」をつけるには、どこに商機があるのか？やはり、韓国人がたくさん来ていること。しかし、一元的にどんな方でも来てほしいのではない。北部対馬を愛してくださり、尊重してくださり、何度も来てくれる、質の高い経済の活性化に貢献してくれる人であれば来てほしいということで満場一致した。
- 働き手が不足していることについても課題である。DXでできる業務を選別していくことが重要である。

■韓国との交流、韓国資金の立地を生かす手法

- 対馬に来れば、韓国好きの日本人が国内で韓国語留学ができる。インバウンドではなく、インバウンドを想定した日本人向けの韓国文化の体験を行うことも可能ではないか。例えば、韓国人アイドルに対馬に滞在してもらい、その韓国人アイドルを好きな日本人が対馬に聖地巡礼する。逆も然りで、日本人アイドルにつしまに滞在してもらい、日本人アイドルを好きな韓国人に対馬に来てもらう。このようは相互交流ができないか。そうすると、ラグジュアリーなホテルの誘致、キャッシュレスなどの普及が進むのではないか。
- 船の往来を考えて、宿泊しなくても4~5時間で楽しめる北部対馬の観光プランを考えたい。南部のことももちろん考えないといけないが、まずは「北部対馬で満足できる数時間」をつくりたい。アニメ、レシピなど、北部対馬だけのオリジナルを提供できるのでは。これをするうちに、韓国を経由した欧米へのアプローチもできそうである。

■生活コスト高への対策

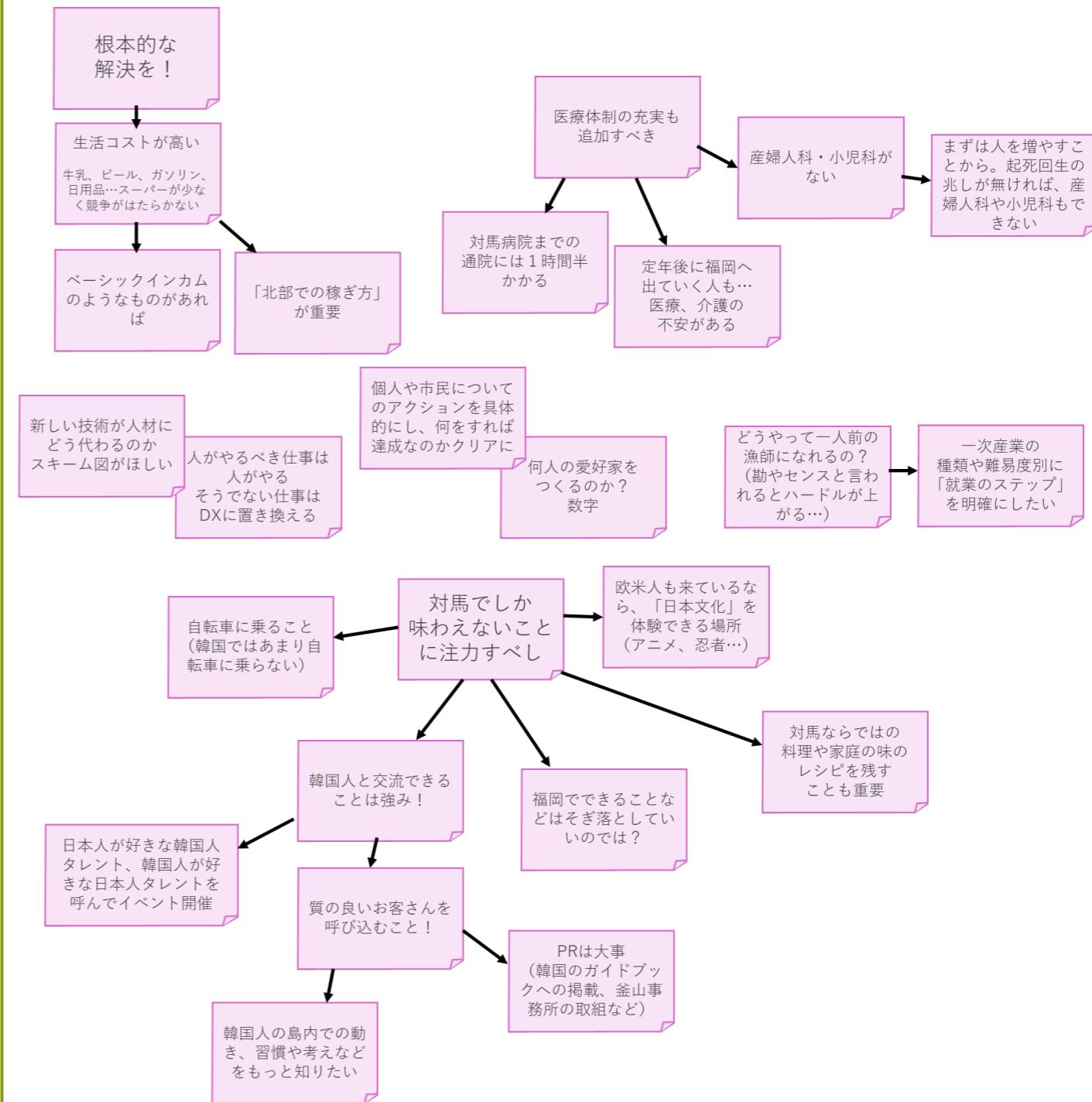
- どんなに外国から観光客が来ても、稼ぐ力がついたとしても、実際に北部対馬に住む人々の生活コストが高ければ島外に離れてしまうのではないか。北部と南部の生活コストの差や、島内と島外の生活コストの差を埋めるため、ベーシックインカムのような地域振興通貨のようなものをつくるというアイデアも出た。それができれば、根本的な生活レベルを解決しながら、攻めの稼ぐ力を身につけ、そうしていくうちに人口が安定し、病院などのインフラも整っていくのでは。

■KPIの必要

- アクションプランにおいては具体的なKPIが無いため、一人ひとりがコミットできるようなKPIを持ちながら進めていけたらと思った。

2 検討内容（ワーキングの内容記録）

C班 グループワーク結果



D班

1 班での議論概要

■ プランの中、選択と集中をすべき

- ・アクションプランの整理はされているが、テーマが広く感じる。さらにテーマを絞り、選択と集中をすべきではないか。

■ 注力すべきテーマ

- ・特に注力すべきテーマとして、以下のような意見が出た。

① 海ごみ

- ・西海岸への海ごみの漂着量が多い。先週掃除をしたところ、1t袋が300袋集まつた。ごみを集めたらあとに焼却施設が無い。大規模な焼却量や、再資源化できるような施設づくりを進めると、それによって雇用も生まれるのでは。

② 獣害対策

- ・試算では、約80億円で島のイノシシの対策ができる。現状1,000名ほどのハンターがいるが、実際に日常的に活動で来ている人はまだ少ない。これは処理場の問題もあるようなので、集中的な予算投下が必要ではないか。

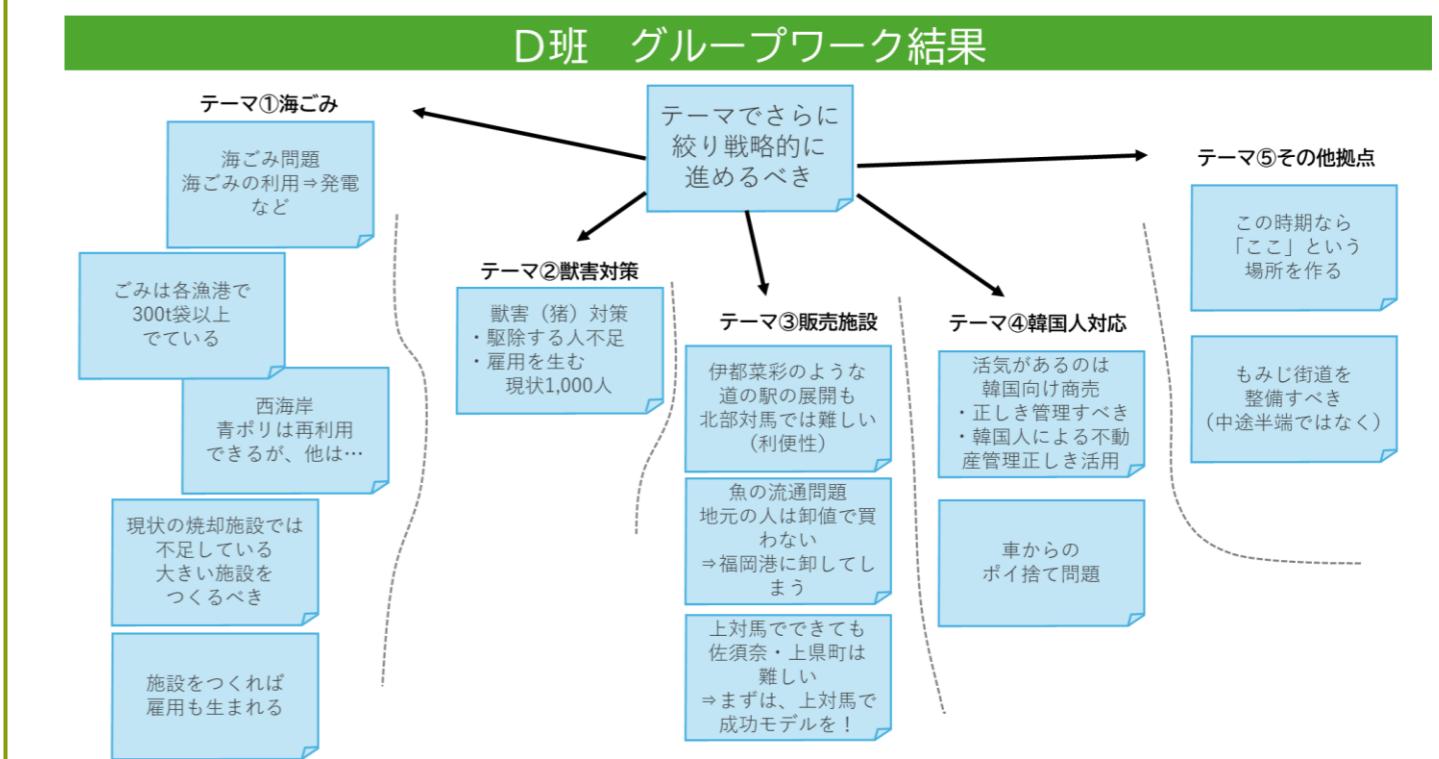
③ 道の駅等の施設

- ・JA産直売上日本一となったJA糸島産直市場「伊都菜彩」の展開が事例として出てきた。しかし、佐須奈や上県での大規模な施設整備はハードルが高いため、まずは比田勝の海業で成功モデルができたらしい。

④ 韓国人対応

- ・韓国人が対馬の空き家を購入して住んだ後のルールが整理されていない。どのような方を島内に受け入れるのか、どのようなアクションをさせるのか、一定の整理をすることで、正しく好循環が生まれるのではという意見が出た。

2 検討内容（ワーキングの内容記録）



E班

1 班での議論概要

■ プランの実現が課題

- ・アクションプランについては良いことを書いているというポジティブな意見が多かった。一方で、どのように実現するのか具体的に考えなければ、実行が難しい。例えば、人を呼ぶにはどうやって呼ぶか。この仕事をやってもらおうという組み立てが課題。

■ 人の確保

- ・島外から来た人の知識・知恵・ノウハウを活用するための制度として、地域おこし協力隊、ふるさとワークホリデーといったものがある。

■ 前向きな目標設定の必要

- ・戦略①～④にはそれぞれ目標が記載されているが、例えば戦略②の目標について、不便を無くそうというコンセプトだが、島に住み続けられる安心感を届けたいというのが本質ではないかという意見がでた。不便やマイナスを解消しようというよりは、安心感を実現することで老いていっても楽しく元気に住み続けられるといったコンセプトの方が良いのではないか。

■ 韓国との交流のあり方

- ・韓国からの観光についても議論した。人を呼ぶのには一番コストがかかる。このまちの一番は「韓国への近さ」である。やはり、近いからこそその交流ができ、韓国に行く前の一步手前留学もできるのではないかという意見も出た。

■ 地域の個性を出すこと

- ・地域の特色や地域の個性を出したいという思いがある。何が北部対馬の特色なのか深掘り続けることが重要。「これをフックに人を呼び込もう」という議論をしていきたい。

■ ふるさと教育の重要性

- ・アクションプランの中で、コミュニティスクール推進やコーディネーターなどの記載があったため、それを活かして進めていきたい。ひとづくりに関連して、島内では「ふるさと教育」が進められてきているが、それが担い手に繋がっていくための道筋を作つたら良い。
- ・担い手や働き手がいないことについて、「ひとづくり」というワード、まちづくりの土台となると考えている。ふるさと教育の概念や地域の名人に知恵・技・心を学ぶこと、それが魅力的な地域の宝だと考えている。「ひとづくり」が暮らしに関わって来る。子どもたちが戻って活躍するという視点を入れてほしい。

2 検討内容（ワーキングの内容記録）

E班 グループワーク結果

